

自然体験活動を取り入れた保養プログラムに関する研究

～保護者の期待と子どもの変化に着目して～

富田 桜（生涯スポーツ学科 野外スポーツコース）

指導教員 黒澤 毅

キーワード：保養プログラム, 自然体験活動, 保護者, 期待

1. 序論

2011年3月に発生した東日本大震災により福島第一原子力発電所が被害を受け、福島県をはじめとする東北地方は、現在も深刻な放射性物質汚染に悩まされている。震災後、東北地方の子ども達を対象とし、自然体験活動を取り入れた保養プログラムが多く行われてきた。中央教育審議会¹⁾は、「自然活動や集団宿泊体験活動は子どもの人間的な成長に効果がある」と述べている。保養プログラムに子どもを参加させる保護者は、様々な子どもの成長に期待しているのではないかと考えた。そこで本研究では、保養プログラムという心身のリフレッシュを目的としたプログラムにおける子どもの変化と、参加させた保護者の期待を明らかにするとともに、その関係性を検討することを目的とする。

2. 研究方法

【被験者】2015年8月17日から21日に実施された、福島県の子どもの対象とした保養プログラムに参加した小・中学生8名とその保護者7名を対象とした。

【プログラム内容】火起こし、野外炊事、海水浴、ハイク、キャンプファイヤー等の内容で構成された。

【調査方法】1)保養プログラムの効果を明らかにするため、村田ら³⁾が作成した「自然体験活動に対する保護者の期待調査用紙」を筆者が独自に修正削除を加え、4因子14項目とストレスを尋ねる3項目を追加した計17項目を用いた。2)期待調査用紙³⁾を4因子14項目に修正し、ストレスを尋ねる1項目を追加した15項目を保護者に用いた。また、同時に普段の子どもの様子に関するアンケートを行った。

【調査時期】子どもに対して、プログラム初日(pre)、最終日(post)の2回調査した。保護者には、プログラム終了後、郵送法によって実施した。

3. 結果と考察

1)保養プログラムの効果

pre, post 時における保養プログラムの効果得点の変化を見るため、ノンパラメトリック検定のWilcoxon の符号付順位と検定を行った結果、調査時期における得点変化に有意な差は得られなかった(表1)。

表1. 保養プログラム効果得点の平均値と検定結果

N=8	pre	post	Z値
	M		
	51.6	53.8	-0.42 n. s.
M : 平均値			n. s. 有意差なし

M: 平均値 n. s. 有意差なし

しかし、項目別にみたところ、Q5「やりきったなと自分が満足できるようなできごとがありますか」に有意な傾向($Z=-1.73, p<.10$)がみられた。

参加者のほとんどがリピーターや他の保養プログラムを経験したことのある子ども達であったため、過去の経験を生かし活動に取り組めたことにより、初日から得点が高くプログラム前後に変化がみられなかったのではないかと考えられる。また、友達同士での参加が多く、プログラム中はその友達同士で過ごし、他の参加者と行動を共にする機会が少なかったことも要因として考えられる。しかし、後半のプログラムのテント泊や野外炊事など、四苦八苦しながらも、やりきった達成感を味わう場面が多くあったため、「やりきったなと自分が満足できるようなできごとがありますか」の得点が向上したと考える。

2)保護者の期待

普段の子どもの様子として、自然に触れる機会が少なく、テレビやゲームをして過ごすことが多いとの回答が多かった。福島第一原子力発電所の事故以来、室内での遊びの増加が問題視されており、放射能への影響を心配し外遊びを制限させている家庭も存在する²⁾ことから、この項目の得点が高くなったと考えられる。

また、保護者の期待得点は全因子、全項目において高い期待値を示していることが分かった。特に「達成感を味わう」、「自分の自信を持てるようになる」、「自然に対して関心を持つようになる」に強く期待していた。

4. まとめ

- 1) 自然体験活動を取り入れた保養プログラムに参加した子どもの効果は、規律・集団生活因子の項目のみに変化がみられた。
- 2) 保護者の期待は、特に「達成感を味わう」、「自分に自信を持てるようになる」、「自然に対して関心を持つようになる」であった。
- 3) 本研究における自然体験活動を取り入れた保養プログラムでは、達成感を感じる点に保護者の期待と子どもの効果の共通点が見られた。

引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会(2013): 今後の青少年の体験活動の推進について, pp. 1-12
- 2) 遠藤明子(2015): 原発被災地における子どもの屋外活動制限・自粛の現状, 商学論集, 第83巻, 第4号, pp. 221-231
- 3) 村田恵美, 田中理絵, 霜川正幸(2013): 子どもの野外体験活動の意義と保護者の期待, 山口大学教育学部研究論叢, 第3部